

日本生協連第61回通常総会・全体討論「発言概要」

会員名 岩手県生協連合会
発言議案 (第1号議案)

代議員番号 38番

代議員氏名 加藤善正

最初に、「東日本大震災」における全国生協ならびに日本生協連からの支援物資や温かい人的支援活動に対して、岩手県生協連に加入の会員生協ならびに被災組合員・県民になり代わり、衷心より感謝申し上げます。

今度の大地震ならびに福島原発事故は日本最大の災害であったといえます。その破壊の規模・犠牲者の多さ・被災地の広さ・経済への影響の大きさ・復旧復興の困難性・放射能汚染の永続性など、どれもが私たち日本人にとって戦後初めての体験でありました。史上有数の津波の脅威に、世界160カ国から支援が寄せられました。また、チェルノブイリと同じ「レベル7」の福島原発事故により、世界の人びとが改めて原発事故の恐怖におびえ、「脱原発」の世界的世論を形成しつつあります。国内においても、「安全神話」で国民を騙し続けた「原子力村」＝「政官財学報」の癒着が批判されています。

今回の総会前の「議案検討会議」は東北・北海道ブロックでは中止され、被災地の組合員や会員生協の声が反映されず、私は今この総会において、第1号議案「日本の生協の2020年ビジョン決定の件」に反対する発言をせざるを得ません。

これからの10年余の実践過程において「このビジョン」のままで良いのか、代議員各位の賢明な判断をお願いします。そして、新しいかつてない状況の変化、世界的な構造的変化を直視して国内的にも国際的にも日本最大の市民組織・生活者の協同組合が、評価され期待される運動を創造的に構築できるように、ご一緒に力を合わせて参りたいと考えます。

私が反対する第1の理由は、このビジョンを作成し論議した時点と、大震災と原発事故を体験した今日では政治・経済・社会・心理的状况が大きく変化していることです。とりわけ組合員の暮らしと会員生協のありようや、社会的な「価値観」が大きく揺れ、これまでの「モノサシ」から転換を求め始めている点です。私は被災地に立ち被災者の話を聞く中で、「自然への恐れ、自然の底知れない力への恐れを失っていた自分、現在の人間・社会・経済・政治などの傲慢さ」を痛感し、「パラダイムの転換」に取り組むことを誓ってきました。全国の組合員・役職員も、これまでの暮らしの「モノサシ(価値観)」でよいのか、自分にとって何が一番大切なのか、よく生きるとは何か、など、この体験を通じて考えたことをみんなで話し合い、その中で「生協にはこうあってほしい」という願いをもう一度磨き上げたいものです。

昨年12月、国連は2012年を「持続エネルギーのための国際年」と決めましたが、原発事故を受けての「脱原発・持続可能なエネルギー」の論議も世界的視野で展開するべきです。そして、そのために生協運動は何ができるのか、何をしなければならないのか、これから1年間、全国的にこうした話し合い・論議を行いその上で来年の総会でビジョンを決めても決して遅くはありません。この話し合いや論議の中でこそ、今度の災害に遭って命を失った方や、いまだ将来の暮らしが見えない人びとの願いに沿った生協らしい、人間の組織としての「2020年ビジョン」が磨き上げられると確信するからです。

第2の理由は、この「ビジョン」そのものの内容の問題であり、詳しくは「岩手県生協連ホームページ」(是非ご覧ください)に示しておりますように沢山あります。この私の意見に対して、矢野専務は日生協内部報「虹流」3月号において、「異論」として論じ、「生鮮強化や地域密着の必要性から事業連合に否定的評価を下すのは、論理の飛躍と混乱であり、何よりも事実と反します」としています。そして、「チェーンストア理論は『単純化・標準化・専門化』であり」、現在の店舗事業の赤字体質を脱出できないことや、本部の上から目線の傾向を自認しつつも、私の意見を建設的な提言とは見ず、チェーンストア理論を金科玉条のように繰り返しております。私は、事実と反しないように言えば、単協でもサンネットでも組合員主体・単協自立をめざし、「コーポラティブチェーン」というような生協らしい事業連帯を重視し、「単純化・標準化・専門化がすべて」のレギュラーチェーンとは距離を置いてきました。我が国のスーパーも、中内功ダイエー社長時代の初期的チェーンストアの原理主義を乗り越えて、生鮮強化・地域密着・現場重視を推進しています。矢野専務が言うような理論が事業連合の「正論」ならば、その実践の成果をもって証明した上で、「異論」と決め付けるべきです。私は、すでに実践し、歴史が証明するとの自論に拘っております。「2010年ビジョン・中期計画」の総括も曖昧なままにつくった「言葉としてのビジョン」が、また「蜃気楼的ビジョン」に陥ることのないよう願う一心です。

(受付日：6月16日)